

◆「形だけのマニュアル」が招くリスク◆

さて、あなたの会社では「業務マニュアルはあるけれど、実際に開かれることはほとんどない...」
そんな状況に陥っていないでしょうか？

- ◆-----◆
最後に更新したのはいつ?
「形だけのマニュアル」が招くリスク
◆-----◆

多くの会社には、業務マニュアルが用意されていると思います。
しかし、実際には開かれることもなく、棚の奥で眠っている。
あるいは、作成したはずなのに「現場ではベテランに聞かないと誰もわからない」という会社も多いようです。

経営者としては、【マニュアルがある=標準化できている】と安心してしまいがちです。
しかし、その油断こそがリスクにつながります。

マニュアルがあるのに、社員が退職する度に業務が滞ったり、新人が育つのに時間がかかったりする場合、
そのマニュアルはほとんど機能していないかもしれません。

では、どうすれば「形だけのマニュアル」から脱却できるのでしょうか。

ちなみに、マニュアルを業務に活用できている企業は、以下のような取り組みを実施しているそうです。

- 更新の責任者を決める
「誰が最新化するか」を明確にし、放置されない仕組みをつくる

■チェックリストを加える
読むだけでなく、実践できる形式にする

■定期的に現場で使えるかどうか点検する
マニュアル自体を棚卸しする習慣をつける など。

マニュアルは「完成して終わり」ではなく、「現場で使われ続けるか」が肝心です。
コストをかけなくても、少し視点を変えるだけで改善できます。

ぜひ、マニュアルを【現場の道具】へと進化させてみてください。
小さな工夫の積み重ねが、使われ続ける仕組みを育てます。

□■□-----
編集後記-----□■□

今回は「形だけのマニュアルが招くリスク」をテーマにお伝えしました。
せっかく整えた仕組みなのに、使われていないのはもったいないですよね。

当社でもマニュアルを点検し、現場で使えるものになっているか確認しようと思いました。

最後までお読みいただきましてありがとうございます。
ご不明な点がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。
それでは、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



発行元

株式会社ピースワン

〒545-0051

大阪市阿倍野区旭町1-2-7

あべのメティックス11階

TEL : 06-6631-0303

FAX: 06-6631-0703

